

「助かる」魔法

karinomaki

魔法

世界には、魔法のような現象があります。その魔法について書きたいと思います。

縦の哲学と横の哲学

人は上っていくことが、定められた生き物です。縦の哲学が本当に物を考える道なのです。苦しみから抜け出そうとして、そして、向上しようとして生きていくべく定められているのです。

しかし、このことがわかっていない人は、横の哲学をします。この世界の、地位や、お金や、形あるものに乗って、満足してしまうのです。

核弾頭

北朝鮮の脅威が話題になっています。北朝鮮は核兵器搭載型のミサイルを開発済みであると主張していますが、この問題は、この世界の心の仕組みと関係があると、無理にこじつけて考えてみましょう。

私は哲学をする人間なので、政治のことはわかりませんが、人の心の仕組みはわかっているつもりです。

もし、この世界の心の地獄が、先ほど書いた「横の哲学」が広がりすぎたための、底にたまった膿だとすれば・・・

それを破壊するべく、北朝鮮問題がこじれてきているのかもしれないのです。

私の文章は、読まれている方もそれほどたくさんではなく、私は精神病患者なので、仕事もしないでただ哲学をして暮らしているわけです。しかし、この小さな活動が、もし、「魔法」であれば・・・と願っているのです。

心の膿と、魔法

私も人間ですので、恐怖に襲われたり、人の心の泥を見たり、心に膿がたまることもあります。

「縦の哲学」から逃げたくなることもあります。

しかし、そんな怖いときこそ、魔法を信じようとする気持ちが働くのです。

魔法とは、溺れるものをつかむワラです。しかし、そのワラは、ある時、強大な力を持つのです

。

それは、世界は美しいと思いたい！！と心から願うときです。

それは、どんなときでしょうか。

とてつもなく、つらいときこそ、それを切望するのではないのでしょうか。

ディズニー映画の膿

ディズニー映画は、観る人を幸せにしてくれます。でも、その映画の中に、「悪者をやっつけてから幸せになる」という膿が詰まっていることに何人の人が気づいているのでしょうか。

本当は、人と戦うべきではないのです。自分の醜さと戦うべきなのです。

私も精神病になり、心ない差別を受け、人の醜さをたくさん見てきましたが、最終的には、人を恨んだ沼に、自分も落ちてしまいました。人を憐れみ、醜く差別した人間が落ちていく沼を、私はのぞき見てしまったのです。それは、血の色をしていました。

発狂しそうになるほど恐ろしい沼でした。そういう沼は、人を陥れて自分は安全なところに乗るという、「横の哲学」をする人がいずれ落ちていく沼です。ディズニー映画の膿は、いずれヒロインたちが引きずり落とされる沼かもしれないのです。

北朝鮮の暴走が止まらないのは、この世界が膿で満ちているからではないでしょうか。まずは、心の問題から始めてみるという、魔法に、私だけでも頼りたいと思います。

縦の哲学は、上りつづけられないといけないから苦しい。でも、沼を見たから、膿を見てしまったから、この世界を美しい色で埋めなおしたいと思うのです。その力こそが、助かる魔法だと思うのです。

私が細々と文章を書いても何にもならないかもしれませんが、私にとって魔法を信じるということは、ディズニー映画のような、悪者をやっつけることではないのです。世界を美しくすること、人を許すことそして、許せないことをした人は許せないということも大事です。

世界に膿をつくることは、上に立って、何かに乗って、下を見下ろし、弱者を差別することです。横の哲学です。そのゆがみが北朝鮮のようなやり方を促しているとすれば。